



わたよう・てるひさ

1975年東邦大学医学部卒業。78年まで同大学院整形外科で勤務。日赤医療センター麻酔科、磯子中央病院勤務を経て、85年に三愛病院設立、院長に就任。総合診療科、整形外科、麻酔科を担当。97年医療法人社団松弘会理事長に就任。2008年6月トワーム小江戸病院開院。日本麻酔科学会麻酔科認定医、健康スポーツ認定医、身体障害者認定医。

新たな認知症治療医療と介護の連携を推進

「メリハリのある検査と高度な治療は勿論、更に音楽療法やドッグセラピーなど個人個人に合った療法をリハビリテーションに組み入れることで認知症は改善されることもあるのです」

開院から約2年間で既に600名を超える認知症患者を退院させた認知症専門病院「トワーム小江戸病院（埼玉県川越市）」に医療界から熱い注目が注がれている。設立者の医療法人社団・松弘会理事長の**済陽輝久**氏は認知症の治療に急性期の病院の対応や先進的療法を取り入れることにより症状を改善する取り組みを続けている。「全ての認知症が不治の病ではない」と語る済陽氏の取り組みと医師を志した理由を聞いた。

三愛病院・トワーム小江戸病院理事長（医療法人社団松弘会理事長）

済陽 輝久

Watayou Teruhisa

母親の認知症がきっかけで認知症専門病院を設立

「すべての認知症が不治の病ではない」という基本理念で、認知症専門病院「トワーム小江戸病院」を埼玉県川越市に開院しましたね。認知症患者は介護施設で対応されることが多い中で、敢えて認知症患者の専門病院をつくった理由から聞かせてください。

済陽 この病院の開設に当たっては、わたしの母への想いがありました。

母は高脂血症（血液中のコレステロールと中性脂肪の一方または両方が増加する状態）に注意が必要な状況でしたが血圧を下げる降圧剤を飲む程度でした。息子のアドバイスを聞かぬ人が運営する埼玉県さいたま市にある急性期病院に検査入院を勧めるわたしの言うことは聞かなかったのです。もし入院していたら大病を予防することができたのですが、ある日わたし

の目の前で倒れました。不整脈だったので、すぐに応急処置で体外ペースティングを行い一命はとりとめたのですが、わたしがその場にいなかったら心停止になっていたことでしょう。しかし、数年後には再度自宅で倒れてしまいました。所見は脳出血でした。

しかも、後遺症の脳血管性認知症（認知症のうち、脳梗塞・脳出血などで脳の一部に障害が起こり、認知能力が低下するもの）を患ってしまったのです。

通常、認知症になればグループホームなどの介護施設に入居させるものですね。

済陽 ええ。ただ、介護施設に入居した患者は必ずしも治療を受けるわけではありませんでした。しかも、三愛病院でもそうでしたが、診ていた患者でも認知症を発症してしまうと、その患者さんは介護施設に移されます。そうなる、その患者さんと診ていた医師や病院とのつながりは切れてしまうんです。場合によっては、必要な治療

も受けられずに亡くなってしまふこともあります。そうであるならば、これを解消して最期まで患者さんの治療に当たる体制

を作ろうと考えました。それが三愛病院に加えて介護老人保健施設の「トワーム指扇」（同県さいたま市）と「トワーム

熊谷」（同熊谷市）、介護付き有料老人ホームの「トワームみずほ台」（同富士見市）、そして認知症専門病院の「トワーム小江戸病院」を相次いで開設した理由です。これらはそれぞれタイプの異なる医療施設なので、症状に合わせて医療連携を密に行うことができます。具体的には、全ての施設は電子ネットワークで結ばれており、個々の患者情報の共有が可能となっていて、最もふさわしい施設で治療・介護が受けられます。

また、トワーム小江戸病院と三愛病院では特に医療連携を強化しており、この結果として一連の診療体制が整備されています。トワーム小江戸病院内には、マルチスライスCT、一般レントゲン、外科用イメージ、超音波診断装置、気管支鏡、経鼻内視鏡、大腸ファイバー、カプセル内視鏡、日本初の胃瘻用内視鏡、SAS（睡眠時無呼吸症候群解析器）、人工呼吸器、高気圧酸素治療装置、トレッドミル、1・5MRI（三愛病院で共同利用）

といった一般の認知症病院では見かけない機器をも含め完備しております。また、現在は三愛病院で共同利用しているMRIについても年内には最新式の米国GE3・0テスラタイプを導入し、手術室なども新設予定です。

音楽療法、ドッグセラピー、園芸療法などを採用

認知症の患者を治療する医療機器が揃っているわけですね。そこまで済陽さんが思いを抱く理由とは何ですか。

済陽 とにかく手を尽くして認知症を治していくんだという思いです。ですから、医療機器の他にも、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるリハビリを積極的に取り入れ、特に最近では言語聴覚士による食事訓練や発声トレーニングにも力を入れていきます。また精神面をケアする臨床心理士も三名在籍しております。また特殊療法として、東邦音楽大学とタイアップした音楽療法や常勤のドッグセラピー

ストによるドッグセラピーや自
社牧場での種豚育種改良、肉豚
生産を手掛けるサイボクハム
(同日高市)の指導による園芸療
法といった個人個人に合った療
法をリハビリテーションに組み
入れているんです。

また散歩道として季節の草
花、果樹、芝生で覆われ、農園も
ある広い前庭の周りに三百坪の
コースが設置され、悪天用には
院内に中三層、一周百坪の回廊
コースも設けられております。

—— そういった療法でお母
さんの病状も改善されたと。

済陽 はい。わたしの母は開
院時から入院していたのです
が、常々女学生時代の話をして
いたので、回想療法を試みたん
です。母の旧友にメッセージを
お願いしたり、当時住んでいた
町を撮影したりして、それをビ
デオレターとして母に見せたん
です。

そうしたら、心ここにあら
ずの状態で、無表情だった母の顔
色が見る見るうちに変わりました。
そして、昔の思い出話を語

医者というのは医学部を卒業
して初めてメスを手にします。
病院実習はありますが、基本的
には座学の勉強一辺倒になりが
ちなんです。その意味では、病
院での当直勤務や救急病院での
急患を診察しては、実地で技術
と知識はもろろ、数多くの経
験を得ることができましたね。

—— この現場での体験で、
どんなことを感じましたか。

済陽 二年間大病院で実践
を経験し、執刀の技術を向上さ
せるためにも、さらなる全身管
理を知る必要があると考えまし
て、日赤医療センター麻酔科に
入ったんです。

—— 麻酔医ならば、様々な
手術に立ち会えますね。

済陽 その通りです。ここで
は科ごとに縫合の仕方や糸の質
などに違いがある事を知り、また、
麻酔科医として手術に参加し、
そこから医療の実際を見ること
で、医師ごとの力量の差も歴然
と分かるようになりました。

ただ、現場では麻酔医であつ
ても次は術者であるという自覚



患者の尊厳を重視し、愛情込めた医療の提供を目指す「トワーム小江戸病院」

りながら笑顔を取り戻したんで
す。認知症とは治らない病気で
はないと感じた瞬間でした。

—— その出来事が済陽さん
の原点にもなったということだ
すね。そもそも医師を志した理
由は何だったのですか。

済陽 わたしの出身地は宮崎
県都城市なのですが、わたしの
父方の祖父は材木屋を営んでい
ました。日露戦争時に軍艦や兵
舎を作るための材料・原料をつ

を持つていましたので、麻酔を
かけながら腕の良い医師には何
でも質問しました。それからい
ろいろなことを教わりながら、
助手もさせてもらうようになつ
たんです。そういう経験を通し
て、こういう病気のこういう手
術はこれがコツだなと総合的に
勉強することができました。

**先生は院長、職員は社長という
当事者意識こそ大事！**

—— そのことが三愛病院の
設立の上でも貴重な体験になつ
たということですね。

済陽 ええ。一つの病気に一
人の医師が全てを把握できるわ
けではありません。それを踏ま
えて、早い段階から放射線科の
医師に来てもらうようにしまし
た。この結果、複数の医師によ
る確認にもつながりましたし、
診断の正確性の向上にもなりま
した。今はやりのチーム医療で
すね。

—— なるほど。三愛病院の
場合、他の病院との違いといふ
のはどんな点にあるのですか。

くつていました。その
後、わたしの父は
一九五一年に警察予
備隊に入隊し身を捧
げていました。

全国各地を動いて
いた中で、わたしの
母と出会ったわけ
です。母方は医者の家
系で、母方の祖父は
産婦人科の開業医で
した。日曜、祝日も
関係なく仕事に追わ
れ、家族で一泊旅行
さえできませんでし
たよ。わたしは二人

きようだったのですが、兄
は最初から医者になると決めて
いたようです。

—— 済陽さんも医者になり
たいと思っていたと。

済陽 いいえ。実は、わたし
は小さい頃から工作とか飛行
機、いわゆる工学系が好きでし
た。ですから、将来はパイロット
になりたいとも思っていました。
ところが、高校時代、勉強も
せず遊んでばかりいたことも

済陽 大きな違いは先生一人
ひとりが院長であり、職員は社
長であると。全員がそういう考
えを持ってやる様に指導してい
るんです。経営者と従業員とい
う考え方がありますが、わたし
はそういった考え方を持ってい
ません。

病院も医者も患者が選ぶんだ
という基本から考えれば当然だ
と思うのですが。

自分たちが良い暮らしをした
かったら、良い診断、良い治療を
すれば良くなる。そういう意
識を持って非常に仕事が楽しく
なります。

—— スタッフ全員が当事者
意識を持てと。

済陽 そうです。三愛病院・
トワーム小江戸病院では職員み
んながニコニコしながら、疲れ
た顔もせずに働く。「忙しい」な
どとは決して言いません。した
がって、当院では一部で使われ
ていた「お疲れさま」という挨拶
が変だという事になり、現在
は「お疲れ様でした撲滅運動」
に発展しております。

あつて浪人してしまつたんです。
父は「医学部を卒業したら何
をやってもいい」と言ってくれ
ました。そこでその年、猛勉強
をして何とか医学部に入学する
ことができたんです。

**全身管理を知るため
麻酔科医に**

—— 医師としての道を歩む
ことになったわけですね。

済陽 実は、医学部を卒業し
てすぐに、福島県で会社を起業
したんです。父から卒業後は
何をしてもいいと言われてまし
たから。しかし、その秋にはその
父を含めた家族から大学に戻る
ように説得されて、同大学の整
形外科に入局したわけです。こ
の医局ではいろいろな経験をさ
せていただきました。

実際に医者として実務に携
わつてみたら知らないことだら
けでした、一ヶ月間で二十五日
も当直したことがありました
ね。この間は、忙しかったですが
知識を忘れる暇もなく非常にい
い勉強になりました。

病院の理念としては①患者さ
んへの愛と思いやりの心、②地
域を愛する心、③医療に奉仕す
る心を挙げておりますが、今年
のグループのモットーとしては、
組織が急拡大した中で再度原点
に戻ろうということ、人に対
する「思いやり」を第一に掲げ
ております。

グループが拡大した事に伴つ
て、提携している関係会社も十
九社を数えるようになり、全体
の業務の合理化、効率化をは
かっておりますが、一番大切な
のは「人」だと思えます。

定年(就業規則上は六十歳)
を超えたスタッフでも、各々の
体力・気力・能力・貢献度に
あつた仕事をしてもらう環境は
整えており、実際に多くの方に
継続してバリバリ働いてもらつ
ています。

こうした中で、病院開設以来
二十五年を過ぎ、スタッフの二
代目が多数親と同じ職場へ自ら
望んで入職してくるようになり
ました。感慨深いものがありま
す。